

第4回 都城市自治公民館加入促進検討会 議事録（要点記録）

【日 時】令和7年10月8日(水) 14:00～16:30

【場 所】未来創造ステーション 多目的室・セミナー室3

【出席者】検討委員11名（4名欠席）

事務局 地域振興部長、地域振興課長、地域振興課職員

【傍聴者】都城市議会議員（岩元 弘樹市議、中村 千佐江市議）、社会福祉協議会（杉元常務理事）、宮崎大学桑野ゼミ学生1名

1 協議事項

（1）前回の振り返り

事務局から第3回検討会の主な意見（①自治公民館の現状、②参加しやすい体制づくり、③準会員制度、④自治公民館の開放）について報告

（2）「誰もが参加しやすい体制づくり」の対策（案）について

事務局から前回の議論を踏まえた対策案を提示

上記（1）、（2）について、前回会議を欠席した委員から意見を徴収

- ・自治公民館に参加していない人たちとの対話の場を設けることが重要
- ・防災・減災の視点から自治会・町内会参加を呼びかける切り口も有効
- ・豊岡市での実践事例（ワークショップ、クオーター制導入等）の紹介
- ・青年会議所では全メンバーに役割を振り、参画意識を醸成
- ・子育て世代、子どもたちのための活動として呼びかけることも一案
- ・高齢者が多い地区、賃貸住宅が多い地区など、地区ごとに課題が異なるため、地域特性を考慮して、各地区の実情に応じた対策が必要

（3）「安心して暮らせるまちづくり」の対策（案）について

これまで検討会で出された意見を「①防災・減災に関すること」、「②防犯・見守りに関すること」に整理・分類し、それぞれの現状課題と対策（案）を報告

（4）他自治体の取組事例紹介

今後の検討材料として、福島県郡山市、東京都、神奈川県横浜市、京都府京都市、福岡県北九州市の取組について概要を説明

（5）委員からの提供資料説明

- ・加入率の危機的状況
- ・脱退防止が最優先課題であり、新規加入促進よりも既存会員の退会阻止が急務
- ・脱退防止のためのワーキンググループ設置の提案
- ・デジタル化の推進（Google サイトを活用した電子掲示板の導入、回覧板をスマート

トフォンで閲覧可能に、成功事例として中郷地区麓自治公民館の取組紹介)

- ・高齢者は経験豊富でしきたりの価値を認識して、若い世代は新しい発想力がある。この世代間の溝を埋めるためには、共感力と傾聴力が必要
- ・高齢者が多いため SNS や Google サイトをどれだけの人が見てくれるか不明。小林市では、全世帯に防災ラジオを配置している。
- ・防災・防犯活動のため、ベストなどの装備支援を行政に要望
- ・物価高騰の影響でお金がない。計画に沿って自治公民館に助成金をいただける制度ができないか。地域に住む行政職員もこの計画策定に参画してほしい。
- ・国民意識調査をみると、愛国心は低いが育てる必要性は感じている。社会貢献意識は高く、地域との関わりを求める人が多い。マイナスイメージの影響が大きい。
- ・子ども主体の活動推進、各公民館が独自の特色を持つことを推奨、スピード感を持った意思決定が必要

(6) 委員からの主な意見

- ・自治公民館でやっていることはまさにケアである。最近よく言われるのがケアを真ん中にと言わっていて、いろいろな人たちを、まちを、人をケアする。それは本当は住民全員の話であり、ケアをするという新しい概念を出していくと、より多くの方たちが関わりやすいようになってくる。
- ・街灯管理、ごみ清掃、生活課題の行政への仲介などの自治公民館活動がなければ安全・安心は保たれていない
- ・自治公民館の本質は様々な生活課題を行政へつないでいく「(社会・地域の) ケア」である。
- ・自治公民館が確保する安全というときに注意しなければならないのは、自治公民館は館費で運営が賄われているので、おのずと安全の対象が自治公民館に入っている人ということで狭い認識になりがちだが、実際に安全確保を行う場合には、館員であろうが非館員であろうが、その区別はできない。
- ・市の広報紙で公民館専用ページを設け、活動内容を周知すべき。自公連も広く知らしめて欲しい。
- ・自治公民館活動の見える化をもっと進めてほしい。
- ・防災士の勉強をして、避難所のあり方や運営の仕方など、そういった考えが自分の思っていたことと全く違っており、だからこんなに自治公民館加入が大切なことなんだということを再認識できた。
- ・発電機、エアコン等のハード面の地域情報の集約が必要
- ・災害時の実際の対応能力を検証すべき
- ・sigfy (市内小中学校で既に導入されているアプリ) の全市民への展開、地区別・属性別の情報配信を提案
- ・マイナンバーカードとの連携による未加入者の把握と見守り活動への活用
- ・市の公式 LINE との連携も有効

- ・公民館に関わる人を5種類に分類した場合の対応策として、①入って活動している人には、現状維持が大事、②入っているが参加できない人には、運営の仕方で対応が可能（行事を休日から平日にする、総会を夜にするなど）、③入っているが参加しない人は、公民館の役割は認識しているが興味がない、活動に興味がない、あるいは負担がある、④入っていないが情報を持たない人には、情報提供で対応、⑤哲学として入らない人には、大きな時間と経費を割くのはほとんど無駄である。
- ・公民館に対する意義を持っている人は参加する、意義を持たない人は参加しない。結論とすれば意義をどうするかという話になる。
- ・地域社会のそれぞれの人が持っている様々な 資源というか、得意、できることを集めという作業（ワークショップ）を、自治公民館でやってみたら面白いのではないか。
- ・「あなたたちはこれしてね」というのは参画していない。従来のやり方も重要だが、ジェネレーションギャップなどもあるので、新しい人たちが参画しやすいような仕組みもあるといい。
- ・複数の自治公民館をまとめる中間組織を検討してはどうか。
- ・前年度踏襲ではなく、新しい意見を受け入れる柔軟性が必要
- ・失敗を許容する空気づくりが重要
- ・子どもと高齢者のタッグは有効
- ・スピード感を持った意思決定が重要。
- ・他地区的イベントにも参加できる仕組みを作り、都城市全体で全員が好きなところに参加できるようにすべき。
- ・小規模でもいいので、モデル地区などで早期に実践し、効果を検証してはどうか。

（7）座長の意見と事務局への提案

- ・電子掲示板やsigfyなど最先端のツールを活用や防災ラジオなど従来型の取り組みなど、地域の実情に応じた情報伝達手段の選択が重要
- ・「得意を持ち寄る」、「課題から始める」など、プロセスに参加することが地域活性化の原動力（課題は捉え方や方法を変えれば活性化につながる）
- ・街灯管理、生活課題の仲介など、自治公民館の見えにくい活動の見える化が急務
- ・モデル地区での実証実験は有効な手段
- ・ワークショップ開催について、自治公民館や自治公民館連絡協議会で検討する必要
- ・事務局への要望
 - ・委員から出された意見を整理し、項目へ追加してほしい。
 - ・提案のあった対策（案）を検討してほしい。

2 今後のスケジュール

- ・次回（第5回）を11月25日（火）14:00時から開催。
- ・場所は妻ヶ丘地区公民館